

HTLV-1

キャリアのみなさまへ



HTLV-1



厚生労働省研究班

「本邦における HTLV-1 感染及び関連疾患の実態調査と総合対策」



HTLV-1 ?

今回、**HTLV-1***に感染していることを初めてお知りになられたことと思います。世の中にはたくさんのウイルスが存在し、身近なところではインフルエンザや肝炎もウイルスによるものですが、**HTLV-1**も古くから存在しているウイルスの一つです。このウイルスに感染したからと言って関連疾患を発病するとは限りません。あなたの疑問や不安を少しでも解消するためにこのパンフレットを作成しました。お読みになって疑問や不安が解消されない場合は、相談窓口（保健所の相談窓口、がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターの相談担当者、難病相談・支援センターの相談担当者、**HTLV-1**感染症に詳しい医師のいる医療機関や血液専門医など）を開設していますのでご遠慮なくご相談ください。



* HTLV-1は、一般的には エイチ・ティ・エル・ブイ・ワンと呼ばれています。

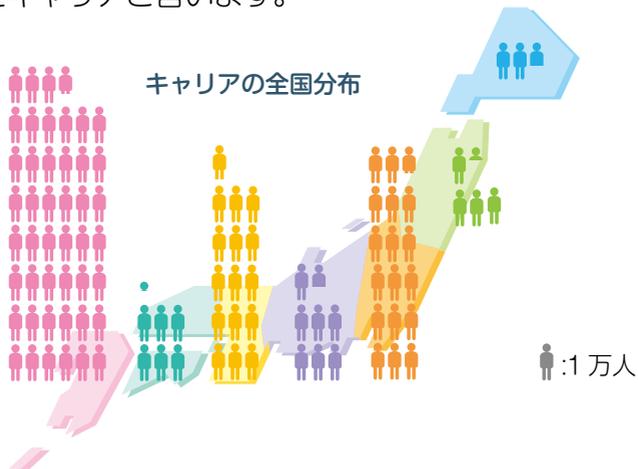


HTLV-1 とは

このウイルスは、古くから人類と共存してきたもので、主にヒトの白血球（リンパ球）に感染するウイルスの一つです。**Human T-cell Leukemia Virus type I**：ヒト T 細胞白血病ウイルス -I 型の略称です。日本では九州を含む西日本に感染者が多いことが分かっています。

HTLV-1 のキャリアとは

HTLV-1 はレトロウイルスと言う種類のウイルスで、細胞に感染するとその中の遺伝子に入り込み、細胞とともに生き続けます。感染によって作られる抗体を検査することでウイルスの存在を知ることができます。**HTLV-1** 抗体陽性と判定された場合、**HTLV-1** に感染していることを示しており、そのような人をキャリアと言います。





感染について

HTLV-1 の感染経路

HTLV-1 の感染はキャリアからの生きたリンパ球が体内に入ることによって起こります。感染経路としては、以下の三つがあります。

- ① 母子感染 ② 性行為感染 ③ 輸血による感染

輸血による感染は、HTLV-1 抗体検査により、ほぼ 100% 阻止されていますので、主な感染経路は母子感染と性行為感染（主に夫から妻）です。

HTLV-1 の感染力

HTLV-1 の感染力は極めて弱く、大量の生きたリンパ球が入らないと感染しません。

したがって、日常生活（水、衣類、食器、寝具、器具、蚊、銭湯、歯の治療、ハリ治療、理髪など）を介して感染することはありません。

くしゃみ、せきなどでも感染しません。授乳・性行為を除く普通の生活での家族感染や職場での感染はありません。

ですから特別の配慮は必要ありません。





母子(母乳)感染について

母子感染は母乳のリンパ球による感染が大部分です。まれに経胎盤感染、産道感染があると考えられています。これまでの調査では6ヶ月以上の長期授乳による母子感染は15~20%程度といわれています。しかし、人工乳により大部分は感染の防止が可能です。人工乳の方法も報告者によって差がありますが、初乳から断乳する完全人工栄養と生後満3か月までの短期授乳の後に人工乳に切り替える短期母乳栄養があります。これ以外にも、母乳を一度完全に凍らせてリンパ球の感染力を消失させた後、解凍して授乳する凍結母乳栄養があります。詳しい栄養の方法については、産科医等へご相談ください。最近のデータでは若い世代のキャリアが激減していますが、母子感染の予防は次世代へウイルスを伝えない最善の方法です。



夫婦間感染について

性行為の場合は、精液中のリンパ球がウイルスを運びますので、主に夫から妻へ感染します。夫婦間の性行為での感染は、10年間でHTLV-1抗体陽性の夫から妻へは60%であり、同じく妻から夫へは0.4%で極めてまれでした。妻に感染しても子どもへの感染は前に述べたように、防止可能です。いずれにしても、感染リンパ球が入ったからといって必ずしも感染するものではありません。





疾患について

HTLV-1 関連疾患

HTLV-1 感染に伴って起こる可能性のある疾患は以下の通りです。

1. 成人 T 細胞白血病・リンパ腫 (**ATL**): リンパ球の一種 (T 細胞) が腫瘍化する疾患
2. **HAM**: (ハム: 歩行障害や排尿障害を引き起こす脊髄疾患)
3. ぶどう膜炎 (眼球内のぶどう膜の炎症)
4. その他

関連疾患の発生頻度

40 歳以上のキャリアで年間 1,000 人に一人の割合で成人 T 細胞白血病・リンパ腫 (**ATL**) を発症します。また **HAM** の発症率は **ATL** より低く、キャリアで年間 3 万人に一人と推定されています。いずれにしても発症するのはキャリアの方のごく一部であり、また感染しても直ちに発症するわけではありません。ほとんどのキャリアの方は生涯、関連疾患を発症することなく過ごしておられます。



ATL の症状

ATL では主に次のような症状がでます。

1. 痛みを伴わないリンパ節の腫れ
2. 治りにくい皮膚病変（皮疹）

40 歳以上のキャリアの方でこのような症状がある方は最寄りの医療機関（血液内科のある病院）への受診が必要です。



HAM の症状

HAM では以下のような症状がでます。

1. 排尿、排便障害
2. 歩行障害
3. 下肢の持続性の脱力

このような症状が出たら最寄りの医療機関（神経内科のある病院）の受診が必要です。



HTLV-1



ご相談は

医療機関相談窓口

相談を希望される方は遠慮なく相談窓口にご電話をおかけください。あなたのプライバシーは堅くお守りします。

なお、電話相談で疑問や不安が解消されない方や、受診を希望されるかたには専門医療機関をご紹介します。

詳しい情報は、厚生労働省のホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/htlv-1.html>

あるいは全国共同研究組織 JSPFAD のホームページ

<http://www.htlv1.org/>

を参照して下さい。



平成 22 年度厚生科学研究費補助金 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業
「本邦における HTLV-1 感染及び関連疾患の実態調査と総合対策」

研究代表者 山口一成

2011 年 2 月